

**三重県私費海外留学生体験記**  
**正路 真一さん（アメリカ・サウスカロライナ州）**  
**サウスカロライナ大学大学院 言語学博士課程**

**2016年10月更新**

**・専攻していた科目の学習内容、成績について**

学習内容としては、言語学の主要分野のクラスを必修クラスとして受講、また自分の専門分野に関するクラスも必修クラスとして受講、その他は色々な言語学のクラスを受講して必要単位数を満了しました。成績は、最初の学期に一つのクラスで B+をとった以外は全て A でした。自分は決して優れた学生ではなかったのですが、いい成績を取るだけなら、毎回クラスに出席して課題を全てこなせば A は取れるものなのだなと思いました。課題を全てこなすというのが大変なのですが、怠け者でない限り、単位を落とすということはずがないと思います。ただし博士論文を完成させるのには予想以上に時間がかかりました。

**・卒業後の進路について(進路、インターンシップ、日本または海外での就職活動等)**

卒業後は、留学先大学と同じ米国サウスカロライナ州内のクレムソン大学で、言語学部日本語科の講師をします。とりあえずは一年契約です。私の場合、就職活動を始めるのが遅れたこともあって(今年になってから始めました)、望むような職を得られませんでしたので、引き続き就職活動を行うつもりです。米国あるいは他の国の大学で、日本語教師として助教以上の職に就きたいと思っています。ただ、これは就職活動を始めてわかったのですが、日本語科で助教以上となると、言語以外の分野、例えば日本文学、日本文化、日本のビジネス、日本映画などのクラスを教えられる人材を求めている大学が圧倒的に多いです。こういう事情なら、言語学ではなく日本文学などを専攻しておけばよかったと思っています。また、日本の大学の留学生センターなどでの職にも応募しましたが、日米間の学期開始時期の違いや(米国大学の卒業時期と日本の大学の就業開始時期のズレ)、面接のために帰国する費用などの難しさを感じました。

**・今後留学を考えている人へのアドバイス、心構えとして伝えたいこと。**

初めて留学される方にとっては、授業も日常生活も大変なことばかりだと思います。授業に関しては、とにかく忍耐強く、全力で課題に取り組むことだと思います。よほど怠けない限り、単位を落とすことはまずないと思います。ただ、ずっと一人で勉強しては英語の会話力が身につかないという弊害もあると思います。ですから、日本人以外の友達と接する時間も作った方がいいと思います。自分の英語力のなさに気がひけることもあるかもしれませんが、そう思い始めるとなかなか発言できませんから、できるだけ悩まないでください。その他日常生活に関しては、色々物事が思うように進まなくてイライラすることがたくさんあると思います。例えば、初めて留学先大学にやってきたら、申し込んでおいたはずの寮の部屋が確保されていなかった、などということもよく聞く話です。こういうトラブルはもう諦めるしかありません。これに関しても忍耐強く気持ちを持ってください。

## 2016年5月更新

### ・専攻している科目の学習状況について

今学期での卒業を目指して、現在博士論文を執筆中です。内容は日本語の照応表現を含む文の処理についてです。先週、最後の結びの章を除く全ての部分を書いて担当教授に提出しましたので、彼らからのフィードバックを待っています。フィードバックが返ってきたら、それに沿って書き直し、また提出し、また新たなフィードバックを受け取り、書き直す、といった作業を何度か繰り返すことになると思います。教授の認可が下りればそれが博士論文の最終原稿となり、この内容を論じる口頭試問に合格すれば卒業となります。また、博士論文と並行して、別の研究も行う計画で、内容は日本語の代名詞の解釈についてです。この研究のプロポーザルを担当教授に見せて、意味のある研究かどうかを確認し、彼らの同意が得られれば、実験方法などを詰めた上で研究に取り掛かりたいと思っています。

### ・ボランティアやアルバイトなど、どのような学業以外の活動をしていますか。

学内で二つの仕事をさせてもらっています。ひとつは、大学の日本語のクラスを教えること、もうひとつは大学付属の英語学校での仕事をすることです。日本語のクラスでは、主に英語を母語とする学部生を対象に、初級日本語の文字クラス(ひらがな、カタカナ、漢字)を受け持っています。週当たり 50 分の授業を 1 回担当しています。英語学校では、留学生へのアドバイジング、データベース管理、受付業務などを行っています。特に当大学の提携校である関西大学担当のコンタクトパーソンとして、関西大学国際部や日本人留学希望者からの問い合わせに応じるなどの仕事をしています。週 4~5 日、計 15~20 時間勤務しています。

### ・三重県や日本の文化や習慣等について紹介する機会はありますか。

三重県や日本の文化について紹介する機会はあまりありませんが、言語も文化に含めるならば、大学で日本語を教えています。また日本語のクラスを受講している学生と大学付属の英語学校に留学している日本人学生とをカンパセーションパートナーとして紹介したり、大学生の日本文化サークルのイベントに参加したりしています。イベントといっても一緒にご飯を食べたりといった程度ですが、私は個人的には、日本文化と言われるものについて読んだり聞いたりするよりも、実際に日本人と交流してもらうのが日本という国を知ってもらうにはずっといい方法だと思っていますので、こうした形での交流を大切にしたいと思っています。

### ・あなたの留学の目的は何ですか。

私は 2001~2003 年(修士号)と 2010 年~現在(博士号)の二回アメリカの大学院に留学しています。現在在籍している大学院では博士号を取得中ですが、これに関する目的としては助教授以上の立場で大学での教職を得ることです。また、初めて留学した時にそもそもなぜ海外で勉強することにしたかということに関しては、大学時代日本でアメリカ史を専攻していましたが、まだまだ勉強したりないと感じたことがまず一つ、またアメリカ史ならアメリカで勉強するのも一つの手であり、同時に英語能力も獲得できて一石二鳥ではな

いかと考えたからです。

**・専攻している(する予定の)科目の学習内容について書いてください。**

現在の私の専攻分野は言語学です。中でも特に心理言語学の分野での研究をしています。現在博士論文を執筆中ですが、論文の内容としては特に日本語の照応表現(代名詞など)についてです。詳しくは、Repeated Name Penalty と Overt Pronoun Penalty という文処理上の現象についての研究ですが、この現象についてはこれまで英語、スペイン語、中国語、イタリア語、ポルトガル語などの文処理における研究がされていますが、日本語における研究はされていません。前述の言語と違い、日本語には「は」、「が」などの助詞があるため、同じ照応表現でも助詞の違いによって異なった文処理がなされるものと予測しています。

**・留学大学に入学するにあたり、どのような手続きやテストが必要でしたか。**

アメリカの大学に入学する場合、大まかな手続きの流れとしては、希望大学のホームページを開き、admission または application のページに進み、このページに書いてある必要書類をすべてEメールまたは郵送で提出する、ということになります。提出書類はかなり多いですが、入学審査に直接関わるものとしては、日本の学校にいた時の成績と、TOEFL または IELTS(大学院留学の場合は GRE か GMAT も)の点数だと思われます。また推薦状の提出も求められますが、これは推薦者を探して実際に書いてもらうまでに結構な時間がかかりますから、早い目に準備をしたほうがいいと思います。

**・留学校を決めるにあたって利用した資料や機関はありますか。**

私は 2001~2003 年(修士号)と 2010 年~現在(博士号)の二回アメリカの大学院に留学していますが二回目の留学に関しては単純に、当時交際中だった今の妻が住んでいた地域の周辺の大学を選びました。

一回目の留学、つまり初めて海外に出た時ですが、この時はあまりアメリカの大学についての知識がなかったので、本屋で留学ガイドのような本を何冊か買ってそこに紹介されていた大学をいくつかなんとなく選んで申し込みました。ただし、実際に入学したのは、ナセル文際交流協会という機関を通して紹介していただいた大学です。(ただしナセルは現在大学院留学の斡旋をしていないと思います。)

**・現在の留学校に決めた一番の理由は何ですか。**

私は 2001~2003 年(修士号)と 2010 年~現在(博士号)の二回アメリカの大学院に留学していますが、二回目の留学先大学に関しては単純に当時交際中だった今の妻が住んでいた地域に近かったからです。

一回目の留学、つまり初めて海外に出た時ですが、この時は、留学先大学で仕事をすることで私自身の授業料が免除されるという、経済的にありがたい条件だったのでその大学に決めました。この条件はナセル文際交流協会という機関が斡旋している「大学院留学プログラム」を通して見つけました。(ただしナセルは現在大学院留学の斡旋をしていないと思います。)

**・昨年度、あなたが関わった国際交流・貢献活動について教えてください(ボランティア活動など)。**

私は現在在籍している大学で、2011年から現在まで助手として日本語のクラスの講師を、また大学付属の英語学校でも事務の仕事をさせていただいているのですが、大学の日本語のクラスを受講している現地大学生と英語学校で英語を勉強している日本人学生をつなぐ手助けをしています。具体的には、英語と日本語のカンバセーションパートナーの紹介したり、現地大学生が作っている日本文化サークルのイベントを日本人学生に紹介したりしています。